

便中カルプロテクチンって 何だろう？



監修：大森 鉄平 先生 東京女子医科大学 炎症性腸疾患 (IBD) センター・消化器内科

おなかの不調が続く… もしかしたら腸に炎症が起きているかも？

腹痛や下痢などのおなかの不調が長く続いている…、ということはありませんか？
症状が一過性の場合、ウイルスや細菌感染といった原因が考えられますが、症状が長く続く、あるいは繰り返す、といった場合は、以下の病気の可能性が考えられます。

炎症性腸疾患（IBD）

炎症性腸疾患は、腸に炎症を起こす原因不明の病気で、一般的に潰瘍性大腸炎とクローン病の2つを指します。腸に炎症が起こることにより、腹痛、下痢、血便、体重減少などの症状がみられるのが特徴です。病状が悪い時期（活動期、再燃期）と落ち着いている時期（寛解期）を繰り返す慢性的な病気で、長期的な治療が必要となります。炎症性腸疾患は、内視鏡検査を実施することにより診断されます。

過敏性腸症候群（IBS）

過敏性腸症候群は、下痢や便秘などの便通異常や腹痛などを繰り返す病気です。明確な原因は分かっていませんが、精神的なストレスや自律神経バランスの乱れなどにより、症状が引き起こされやすいのが特徴です。腹痛や下痢などの症状が炎症性腸疾患と似ていますが、過敏性腸症候群では腸の炎症は見られません。

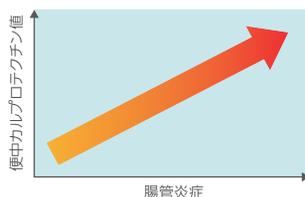


便中カルプロテクチン検査は、 腸に炎症があるかどうかを調べる検査です



好中球

カルプロテクチンは、白血球の一つである好中球にたくさん含まれるタンパク質です。腸に炎症が起こると、そこに好中球が集まり、腸管壁から便の通り道に漏れ出てきます。そのため、便に含まれるカルプロテクチンの量を測定することにより、腸に炎症があるかどうかを調べることが可能となります。



便中カルプロテクチン検査の特長

身体的な負担がありません

便検査なので、内視鏡検査と比較して身体への負担がありません。便中カルプロテクチン検査を行うことによって、内視鏡検査が必要かどうかの目安としていただくことも可能です。お子さんや妊婦さんにも安心して検査いただけます。

腸の炎症を客観的に把握できます

CRP などの血液検査は全身の炎症状態を反映しますが、便中カルプロテクチン検査は腸の炎症状態を反映します。便中カルプロテクチンを測定することにより、腸の炎症状態を数値で客観的に把握することができます。

安定性が高く、簡便です

便中カルプロテクチン検査は便を採取して医療機関に持っていきだけで検査をすることができます。便中カルプロテクチンは室温で3日程度は安定と言われているため、提出予定日(次回通院日など)を含む、前3日以内に採取した便であれば検査することができます。

- ※ 提出までは玄関先などの、できる限り冷所に保管してください。
- ※ 月経期間中および注腸・座薬使用后 1～2 時間程度は排便を控えてください。検査結果に影響が生じる可能性があります。



便中カルプロテクチン検査を行うのはどんな時？

1 腸疾患の診断がされていない方で、 3カ月以上 下痢や腹痛の症状が続く方

炎症性腸疾患の診断補助

炎症性腸疾患 (IBD) が疑われる患者さんの、内視鏡検査前の補助検査として便中カルプロテクチン検査を実施します。

検査結果が 50 mg/kg を超えた場合、腸に炎症が起こっている可能性があるため、確定診断のための内視鏡検査を行います。



2 炎症性腸疾患と診断されている患者さん

炎症性腸疾患の病態把握の補助*

定期的排便中カルプロテクチン検査を行い、腸に炎症が起こっていないかをモニタリングします。症状が落ち着いていても定期的に検査を行うことで、再燃予測などに役立ちます。

* 3カ月に1回を限度として保険が適用されます。

➤ 潰瘍性大腸炎の患者さん

検査結果が 300 mg/kg を超えた場合、内視鏡的活動状態(再燃)にある可能性が高いといえます。

➤ クローン病の患者さん

検査結果が 80 mg/kg を超えた場合、内視鏡的活動状態(再燃)にある可能性が高いといえます。

Information

「炎症性腸疾患 (IBD)」と「便中カルプロテクチン検査」に関する情報ページです。

詳しくはこちらから

二次元コードより簡単アクセス



Learn more at thermofisher.com/calpro-dr

thermo scientific

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社